

# 景況実感調査(2019年1月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

## 薄板・表面処理鋼板

- ① 1月は店売り、紐付きともに減少した。10～12月に盛り上がりを見せた店売り市場が再び低調になった印象である。中国の米国向け建産機が不調であり、貿易摩擦の影響が出てきたようだ。内需は引き続き堅調といわれているが、人手不足の影響で期末の駆け込み需要は感じられずに終わると予想している。
- ② やっとオリンピックの仕事が増えてきている。
- ③ 依然として収益悪化が続く。値上げしたくてもできないし、したら数量が落ちる。会社として決断の時かもしれない。重量確保か採算重視か。
- ④ 実働18日となり前月より1日減となったが、売上、数量共に若干の増加となった。JFEのトラブルによる減産の影響もあまり実感されず、薄板の店売り玉にタイト感が出てきていない。したがって、価格も上昇機運がフリーズ状態。紐付き価格の改定が実施されないと米中貿易戦争の中、店売り市場も下押しの場面も心配される。
- ⑤ 材料値上げに製品(販売価格)が追い付かないまま在庫が増加傾向にある。タイト感はない。

## 中板

- ① 高炉のトラブルにもかかわらず、タイト感が感じられないまま年明けを迎えた店売り市場は依然として停滞感が強く、自動車の好調を背景として堅調推移してきたコイルセンターの稼働もその影響からか1月度の加工量は減少した。国内でのコイル輸送船の滞船や中国材市況の下落の影響、更には紐付き需要家向け供給価格と店売り価格との歪み等もあり、市況の下落まで懸念される場所である。まずは米中貿易摩擦の早期の解消を願うところである。

## 厚板

- ① 建産機ユーザーからの受注は安定している。主要ユーザーの生産見通しも高位にて安定しているものの、今後の海外市場の動向は予断を許さないものと思われる。土木系は複数の案件が並行して進行しており、好調が続いているが3月から4月にかけて端境期に入る。建設系の仕事も以前ほど引き合いはないが、4月以降に回復するとの見方もある。11月まで好調に推移してきた素材販売は足下の2か月弱、弱含みで物件物を除くと低位に終わった。スクラップ相場に下げ止まり感があることが市場の相場観を下支えすることを期待したい。在庫の不足感はないが、一部メーカーのロール遅れや海上輸送の問題は解消しておらず、入荷状況を引き続き注視したい。

## — 舟安开形鋼

- ① 正月明けの荷動きは順調だったが、月末に向かうにつれて緩慢となり、締めると12月以前までの荷動きとは違う落ち込み方だ。2月の一か月を経過してみれば今後の夏場までに様子が見えてくるのではないか。ここ数年間、メーカー主導で値上げをしてきた点が気になる。

## II 开形鋼

- ① 1月の倉出しは減少した。予想通りの数字で、前半の出庫が減少。中旬から引合いも増えており、底堅い需要はあるので採算可能な販価に転稼していく。

## 異形棒鋼

- ① 秋需も一巡し、すっかりスポット、小口中心の取引環境となった。スクラップ市況下落の中、メーカーの頑張りにより市況は膠着状態で、荷動きは悪化している。
- ② 店売りの1月の動きは12月と同じくまあまあだった。2月の受注残はあまり無いが、当用買い中心なので今月と同じと見ている。横這い。
- ③ スクラップ価格はやや下がってきた感があるが、数量は減少しており、景況は良くなっていないと感じる。

## 平鋼

- ① 市中の荷動き状況は昨年末から急激に悪化し、年が明けても落ち込んだ状態が続いている。好調だった建築関連も足下の動きは低調。だが、先の物件予定もあり一時的な落ち込みはあるものの堅調に推移すると思われる。荷動きが悪いため、価格転嫁は苦戦しているが継続していく。
- ② 日数が少ないこともあるが、日あたり数量も減少。年末まで好調だった加工品にも建築・土木ともに一服感が出てきた。値上げもしたいが環境的に弱い（スクラップの価格も要因）。今後は弱気にならず価格維持と根気強く値上げ交渉を行っていく。

## 車全量开形鋼

- ① 相変わらず出荷明細に偏りがあり工程組、人員配分に苦慮している。
- ② メーカーのロール遅れが原因で一部サイズの欠品が続いているが、例年の1月に比べると良かった。2月から3月も続いてくれれば良いのだが。
- ③ 五輪特需がスタートし、荷動きは活況となっている。今後、働き方改革法の施行に伴う労働力確保が課題となる。

## 鋼管

- ① 荷動きは前年比では20%増加で推移するも、1月後半からやや緩慢になりつつある。メーカー値上げ転稼により、市況は今後も強含みで推移すると思われる。
- ② 加工量が増えた分、粗利が10%位増加した。
- ③ 製品のタイト感が11月～12月と比べると更に強まっている。2月～3月は更にタイトになる見通しである。

## 構造用鋼

- ① 需要動向については大きな変化はなく、自動車、建機関連、産業機械など紐付き需要による好調を維持。店売りについては米中貿易摩擦の影響や中国経済の減速感などにより、工作機械の製品や部品輸出減等のため落ち着いた状況となっている。市中在庫については、特殊鋼メーカーは相変わらず繁忙で納期調整を継続しており、横這いで推移。市況も変化要因に乏しく、現行価格で留まっている状況。
- ② 引き続き生産レベルは高水準ながら、堅調であった建機関連の下方修正の影響か、素材発注に減速感が見られ、鉄鋼メーカーの引き受けも中太サイズで柔軟な対応が若干出てきた。また、米中貿易摩擦の影響からか、半導体関連、産業ロボットなど設備投資関連も一部で減速している。今後も注視したい。
- ③ 毎年1月は通常月より物量が少ない傾向にある。

## 磨棒鋼

- ① 素材となる特殊鋼線材は依然として高い需要から、タイト感が続いている。とはいえ、一年前の状況と比べると緩和傾向となってきた。中国国内の景気動向が減速感を強めている様子だが、国内の特殊鋼ニーズは今のところ大きな変化はないものと見られている。ただし、今までのような繁忙は次第に終息していくと思われる。

## その他

### <鉄スクラップ>

- ① 1月は稼働日も少なかったが、市中発生も販売市況もイマイチだった。2月は国内メーカーが減産すると聞いているので、海外市況は反発しそうだが一時的なものと思われ、価格の上昇はあまり期待していない。

### <金属表面処理加工>

- ① 1月は紐付き材の扱い量は予定通りとなったが、物件物の工程遅れにより仕掛り残が多くなった。当月の予定量としてはスポット受注が思ったより伸びず、20%の扱い量減となる。2月は橋梁、プラント関係の物件が多くあることから高操業を維持できそうである。